

[企画・発行]

おおいた障がい者芸術文化支援センター

(公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団)



令和3年度

おおいた障がい者 芸術文化支援センター

事業報告書

はじめに

センターは、令和元年11月に開所して3回目の春を迎えました。開所1年目の春から新型コロナウイルスが猛威を振るい、事業の進め方、取り組み方の転換期を迎えている今、感染防止に取組みつつ、県内の障がいのある人たちの芸術活動の輪を広げ、自由に表現活動を楽しめる機会の提供を行いました。

第3回となった展覧会は「生きるチカラ」をテーマに鹿児島県のしょうぶ学園の作品紹介、大分の若手作家、企業とのコラボ商品の展示等、見に来てくれた方に元気を与える空間づくりを行いました。12日間の会期中は、県内外の多くの方にご来場いただきました。また、同会場内外では、展覧会出展作品をモチーフに作家自身がモデルを務めたファッションショーや、障がいのある人となない人がダンスリーダーとともにダンスを披露し、多くの方に感動していただいたのではないかと思います。本年度は、展覧会はもとよりセミナーにおいてもコロナの感染拡大により来場できない方のために、遠隔操作での鑑賞支援やオンライン配信に取り組みました。しかしながら、県内の福祉施設等でのアウトリーチや大分県立美術館でのワークショップは、残念ながら一部中止や延期を余儀なくされました。

次年度以降も、県内外の関係者の方にお力添えをいただき、障がいのある方の芸術活動の課題解決にむけた支援を行って参ります。

最後になりましたが、センターの事業にご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

おおいた障がい者芸術文化支援センター

おおいた障がい者 芸術文化 支援センター

県内に居住する障がいのある人の芸術文化活動を支援することを目的に、令和元年11月に大分県が「おおいた障がい者芸術文化支援センター」を設立しました。障がいのある人自身やそのご家族、支援者などの相談内容に応じて、障がいのある人が芸術文化活動を楽しむことができる環境や体制を整え、様々な機関や人をつなげてサポートします。大分県において、障がいのある人たちの芸術文化活動の輪が広がり、誰もが自由に表現を楽しみ、生き生きと自分らしく生活できることを目指します。

3 発表機会の提供

→ P09-13

展覧会や舞台公演など、障がいのある人の表現活動を発表する場を提供します。

- 生きるチカラ ● gallery MAPO
- 舞台ダンスワークショップ in OPAM

4 人材育成

→ P14-16

セミナーなどを開催して、障がいのある人の表現を活かすための知識を学ぶ機会を設けます。活動を企画・運営できる人材を育成し、支援の輪を広げます。

- 彫刻をさわる時間シンポジウム
- みえない+みえる=∞
- フレフレハンカチおおいた巡回展 講演会&ワークショップ
- 著作権セミナー

5 鑑賞機会の提供

→ P17-18

様々な団体と連携し、障がいのある人が気軽に美術館や劇場、ホールを訪れることができる環境を整えます。

- 鑑賞支援つきオペラ『リタ』
- 彫刻をさわる時間

6 情報収集・情報発信

→ P19-20

障がいのある人の芸術文化活動に関する調査を行い、新たな人材や作品を発掘します。ホームページやSNSを通じて、県内で活躍する障がいのある作家の紹介や、県内外のアートイベントの情報発信を行います。

- 調査・発掘 ● 情報発信

7 交流事業

→ P21

障がいのある作家が講師となり、県内の学校などでワークショップを行います。子ども達との交流を通じて、表現活動への関心を高めます。

- アートを感じるワークショップ

1 相談支援

→ P03-05

個性や障がい特性に合わせた制作環境づくりや、イベントの企画・運営についてなど、障がいのある人の表現活動に関する様々な相談を受け付けます。

2 創造機会の提供

→ P06-08

障がいのある人が地域の人々と一緒に表現活動を楽しめる場を提供します。

- アウトリーチ
- オープンアトリエ in コトブキヤ駅南
- 5つのアトリエ
- オープンアトリエ in たけた

7 相談支援

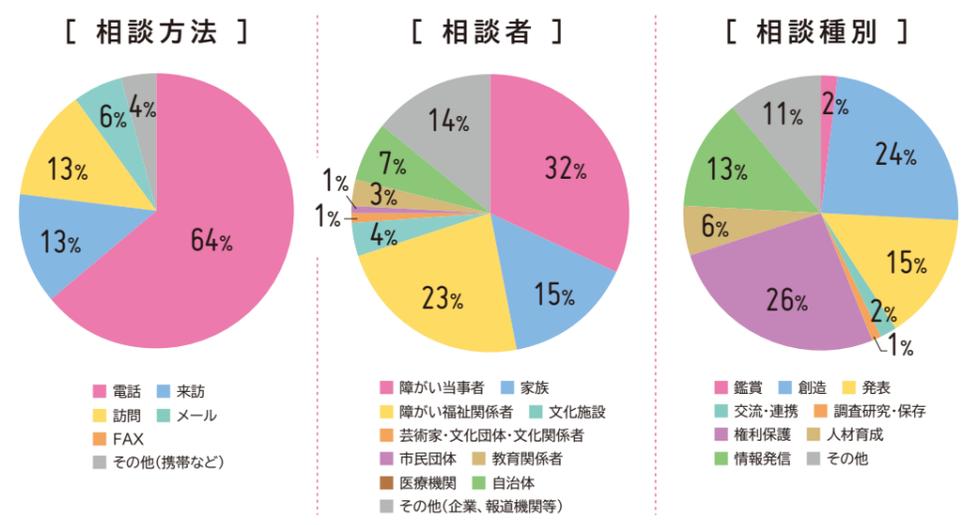


障がいのある人やご家族、障がい福祉関係者からの相談を始め、企業や自治体などからも相談が寄せられました。障がいのある人への出展依頼などもあり、障がいのある人の作品を広く知ってもらえる機会につなげることができました。また、作品を利用し、商品にする場合などの著作権についての相談も複数あったため、著作権について学ぶセミナーを別途開催しました(P16)。パソコンのソフトを利用した作品づくりに関する相談も増えてきているようです。

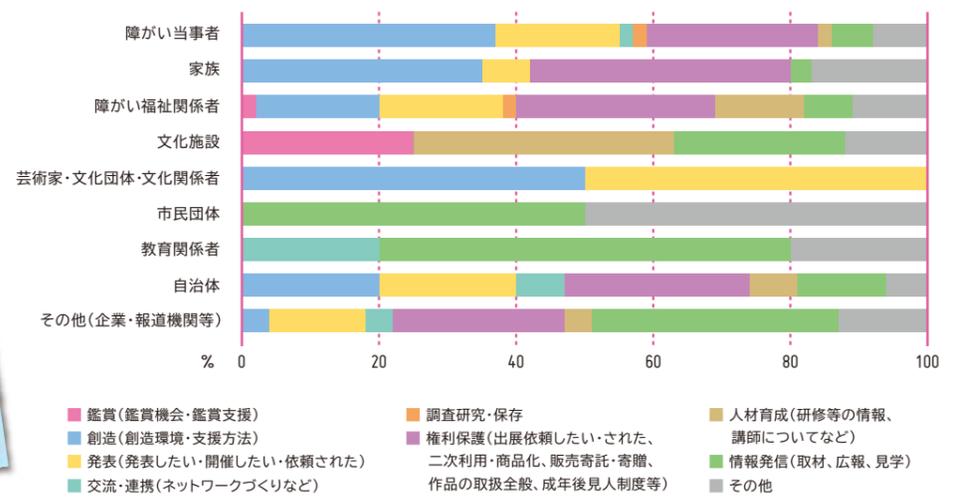
◆ 令和3年度相談実績

- ◎令和3年4月～令和4年2月
- …… 198件
- ◆ 相談窓口
- ◎相談方法
- …… 電話、来訪、訪問、メール、FAXなど
- ◎受付時間
- …… 9:00～17:00 (土・日曜、祝日等を除く)
- ◎相談体制
- …… 相談員4名

◆ 令和3年度相談事例集計結果



[相談種別内訳]



相談支援事例

「美術館がやってきた」会場の図書館



case 01

相談者 図書館

相談種別 発表(開催したい)

相談内容

図書館が主催する展示会に、障がいのある作家に出展していただきたい。会期中はワークショップや公開制作、セミナー等も実施したい。作家の紹介や、会場の展示環境の整備をお願いしたい。

会場を訪問し展示が可能であることを確認した上で、県内で活動する障がいのある作家を紹介し、当センターが協力して展示会をコーディネートしました。

case 02

相談者 文化施設

相談種別 鑑賞(鑑賞支援)

相談内容

映画上映会を開催するにあたり、障がいのある人にも楽しんで貰いたい。どのような鑑賞支援を準備しておくとうい。

①大分県盲人協会(点字図書館)にて点字プログラムの作成 ②大分県聴覚障害者協会に手話通訳・要約筆記の依頼 ③当センターで行った鑑賞支援
以上の説明と参考となるホームページを案内しました。



映画上映会の様子

case 03

相談者 家族

相談種別 創造(支援方法)



相談内容

娘の創作活動について。画材店で色々と画材を探しているが、何をしたらよいか悩んでいる。本人らしさが表現できる画材や方法がないだろうか。

本人の身体的な状況をヒアリングし、指などのボディを使った創作方法のアドバイスをしました。

case 04

相談者 自治体

相談種別 二次利用

相談内容

県の障がい者協会では、障がいのある人の作品を掲載したクリアファイルを毎年制作している。絵画作品を選びたいので、何点が候補作品を紹介してほしい。

作品の雰囲気やイメージ等、希望を聞いた上で、センターで知り得る作家6名、作品14点を候補として提案しました。担当課内での協議を経て、作品1点が決定しました。



「大分県障がい児協会」クリアファイルと原画作品

相談支援事例

case
05

相談者 障がい当事者
相談種別 発表(発表したい)



作品発表展「わたしのパレット」

相談内容
タブレット用のアプリを使ってイラストを描いている。SNSや動画投稿サイトで作品を発表しているが、それ以外の発表を考えたい。新しいことにチャレンジしたい。

公募展へのチャレンジをすすめ、公募情報の資料をお渡ししました。また、当センターで開催している「オープンアトリエ in コトブキヤ駅南」に参加していただき、年度末にはアトリエの作品発表展で作品を展示しました。

case
08

相談者 その他(企業)
相談種別 発表(開催したい)



展示作品(河野真一郎)

相談内容
銀行のギャラリースペースで絵画展を開催したい。大分県内の風景画をテーマに、障がいのある作家を紹介してほしい。

センターで2名の作家を選定し、主催者の代わりに、作家本人や家族へ依頼内容を伝えて了承を得ました。その後、主催者とセンターで業務分担をし、当センターが協力する形で展覧会を開催しました。

case
06

相談者 障がい福祉関係者
相談種別 情報発信(広報)

相談内容
施設利用者の家族から、作品を紹介するホームページを作りたい旨の相談があった。どのように調べて進めるのがよいか。

有料ホームページ、無料ホームページ、それぞれのメリットとデメリットを伝えました。まずは無料版を検討してはどうかと具体例を見せながら提案しました。

case
07

相談者 障がい福祉関係者
相談種別 人材育成(研修先紹介)

相談内容
アート活動に積極的に取り組む福祉事業所の見学ツアーを企画したいと考えている。県内のおすすめの事業所の情報を提供してほしい。現場見学とヒアリングを行い、自分たちの地域の福祉従事者の学びの機会としたい。

訪問先の候補として複数の施設を提案しました。1日に3施設程度を訪問する計画で、仮のスケジュール案をともに組み立てました。



上:二人展「大分の風景」/下:展示作品(伊藤篤司)

2 創造機会の提供

アウトリーチ

福祉施設、福祉関係団体の活動の場に専門講師を派遣し、日常の中で経験することのない様々なアート活動の機会の提供を目的に、造形、音楽、身体表現などのアウトリーチを開催しました。本年度は、公募10カ所に訪問する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により6カ所でのみの開催となりました。訪問先は6施設、参加者は、放課後等デイサービスの児童・生徒、通所の福祉施設利用者68名、職員29名でした。実施後のアンケートでは、満足度が高く、すべての施設が今後も訪問を希望しており、今後、今回の取り組みを施設内活動に取り入れたいなどの積極的な声がありました。

参加者の感想

今回行った遊びを通常にも取り入れています。楽器にも興味を持った様子でした。

普段見たこともなかった材料で新しい発想のアートを知ることができ、今後も色々取り入れていきたいと思いました。

ボールやバランスボールを使った体操など、すぐに真似できそうなヒントが盛り沢山でした。

講師の先生の声掛け、ほめ方等、支援の参考になりました。新しい楽器にもチャレンジしてみたいと思います。

最初「しない」と言っていた子どもや消極的な子どもも、全員参加しました。「とても楽しかった！」と声が上がりました。

道具を使ったり、曲に合わせて力いっぱい体を動かしたりして、90分間集中して取り組み、最後は全員大満足の笑顔が見られました。



不思議な形の彫刻を作ろう!

講師 大分大学教育学部 講師 村上 佑介

表現活動は特別な技術が必要なのではなく、材料の特性や作り方の手順を知ること、誰でも楽しんで取り組むことができます。今後も施設の皆さんで、色々と挑戦してほしいです。



音楽&ダンス

講師 音楽療法士 JDAC認定ダンス指導員 木村 八重子 杉藤 小和

発達段階に応じた形で自分から集団に関わりたくなるような、そして集団活動の楽しさや、一体感の心地良さを味わう経験を機会をたくさん提供したいと感じました。



体を動かしてみよう!!

講師 Clear Lunダンスセラピー療育代表 川口 倫恵

みんなのまとまりがよく、何でも出来る身体能力の高さで、初めてのレッスンにもかかわらず、充実した内容で多くのことが行えたのはよかったです。



しちとうい 七島蘭を編んでみよう

講師 認定工芸士・七島蘭作家 岩切 千佳

最初は、短い時間の中で利用者さんがどれだけできるか?大丈夫か?と不安もありましたが、皆さんの集中力がすごく、ひたすら作業を進めてくれました。完成した共同作品で、施設のエントランスの天窗を素敵に飾ることができました。



音に触れてみよう

講師 音楽療法士 音楽療法士 木村 八重子 岩本 睦恵

珍しい楽器を鳴らす、人前で演奏する、自分の好きなこと(曲、楽器など何でも)を伝えるなど、自分なりの発想で活動を楽しむ姿が多々あり、素晴らしい感性を感じました。



身体でリズム

講師 JDAC認定ダンス指導員 西川 晴香

子どもたちと同じくらいスタッフも楽しそうに参加してくれていました。ボール、リズム、リトミックで身体を大きく動かして、最後はみんなでダンスをすることができました。



オープンアトリエ in コトブキヤ駅南

障がいのある人、特に自宅や施設等で創作活動の機会が十分に持てず、活動の場を必要としている高校生以上の人を対象に開催しました。アトリエは、障がいのある人とない人がともに創作活動を楽しむ場であり、指導や評価などは行わず、個人の感性を大事に自由に活動してもらいました。全14回を予定していましたが、夏、冬の新型コロナウイルスの感染拡大により10回の開催となり、延べ86人が参加しました。また、本年度はアトリエにて制作した作品27点の魅力を伝える「わたしのパレット展」を開催しました。会場には作品展を楽しみにしていた出展者の皆さんをはじめ、多くの方々にご来場いただきました。

6～2月(10回)開催

◎会場 コトブキヤ駅南店

◎参加者 延べ86人

講師 | 創作活動アドバイザー
谷口 裕子

参加者にとって、伸び伸びと創作表現ができる場であり、自分の世界観を黙々と表現していました。絵画は家庭で一人でも描けますが、他の参加者から刺激を受けて、参加者同士、良い影響を与え合っているように見えました。気軽に参加できる「オープンアトリエ」はとても有意義であり、創作活動が日々の生活の中の彩りとなっている人もいらっしゃると思います。

展覧会を開催しました

わたしのパレット展

3月1日(火)～27日(日)開催

◎会場 大分銀行宗麟館2階
ソーリンスクエア

◎出展者 27人

◎作品点数 ... 27点

「オープンアトリエ in コトブキヤ駅南」の参加者による作品発表会。絵の具やカラーペンなど、様々な画材にチャレンジして生まれた作品から1人1点をピックアップし、額装して展示しました(展覧会は大分銀行と共同主催)。



5つの アトリエ

障がいのある人、特に自宅や施設等で創作活動の機会が十分に持てず、活動の場を必要としている人に対して、障がいのある人とない人がともに芸術文化活動を楽しむ場として、当財団の施設内(iichiko総合文化センター・大分県立美術館)において「5つのアトリエ」(ダンス2回、造形2回)を開催。コロナ禍ということもあり、8月に予定していた2回は12月と2月に延期しましたが、2月も蔓延防止等が出た関係で中止を余儀なくされ、合計4回の開催となりました。参加者は、今までに経験したことのないダンスに挑戦したり、触ったことのない石膏テープを使った彫刻に取り組んだりして、非日常的な経験をとても楽しんでいました。



しげやんと行こう!
2021年ダンスの旅

10月2日(土)開催/iichiko総合文化センター

講師 | ダンサー・湖南ダンスカンパニーディレクター
北村 成美

一人ひとりの独創的なダンスが集まって、一つの作品となっていきました。終盤の発表では、短時間で仕上げたとは思えないようなパフォーマンスに、驚きの声がかれました。



触って、貼って、描いて
不思議な形の彫刻を作ろう!

12月5日(日)開催/大分県立美術館

講師 | 大分大学教育学部講師
村上 佑介

石膏テープを水に浸し、絞って風船に貼る作業を繰り返しました。硬くなったら風船を割り、形ができあがった彫刻に色を付けます。顔や模様など多様な作品ができあがりました。



さわらずにふれる!? ダンス

11月27日(土)開催/iichiko総合文化センター

講師 | ジャワ舞踊家
師 | 佐久間 新

ガムランの音楽を聴きながら、講師の動きに合わせてゆっくりと手足を動かし、鶏になったり、牛や猫、ゾウなど多様な動きで、とても新鮮なダンスでした。



ふわぼかペット

12月18日(土)開催/大分県立美術館

講師 | 美術家
師 | Kana

フェルトに針でいろいろな毛糸を刺して、みんなで一生懸命顔を作りました。悪戦苦闘しながらも、とてもかわいいペットが完成しました。

オープンアトリエ in たけた

障がいのある人とない人がともに地域(竹田市)で芸術文化活動を楽しむ場をつくることを目的に、一般財団法人竹田市文化振興財団(グランツたけた)と共催して開催しました。小学生から大人までの42人の参加者が、障がいのある人もない人も一緒にステージパフォーマンスを楽しみました。



ぼわんぼわん祭り♪

9月26日(日)開催

講師 | 大分県立美術館教育普及室長
師 | 榎本 寿紀

大小様々なビニール袋に空気を入れて、空中に投げたり、転がしたりして空気のカタチと戯れました。ロングタイプやカラフルタイプも登場し、最後はステージいっぱいの超特大サイズの「ぼわんぼわん」が登場すると、子どもたちは下にもぐったり乗っかかったりして、日常ではできない、楽しいステージパフォーマンスとなりました。



しげやんと行こう!
2021年ダンスの旅

10月3日(日)開催

講師 | ダンサー・湖南ダンスカンパニーディレクター
師 | 北村 成美

参加者一人ひとりの身体に宿るダンスを見つけて、言葉を発することなくコミュニケーションを取りました。思いを表現することで、参加者同士も自然とつながります。青い光の中でのパフォーマンスは、1時間強のワークショップ後すぐの発表とは思えないほど見ごたえがあり、観客の保護者、関係者も感動するステージ発表となりました。



さわらずにふれる!? ダンス

11月28日(日)開催

講師 | ジャワ舞踊家
師 | 佐久間 新

ガムランの音楽を聴きながら、ジャワ舞踊独特のゆっくりとした動きで舞台の感触を感じながら歩いたり、無音の中で周りの人の息遣いやかすかに聞こえる足の音、空気の流れを感じながら動く様はとても感動的でした。息を吸って吐く時のかすかな音の出し方をみんなで練習し、参加者が出す音でのダンスを披露しました。

3 発表機会の提供



おおいた障がい者芸術文化支援センター 企画展 vol.3 生きるチカラ

県内外において魅力的な芸術文化活動に取り組む人や施設を紹介することを目的に、鹿児島市の障がい者支援施設「しょうぶ学園」による作品展『「しょうぶ学園」展』と、大分県内の障がいのある作家や企業等の取り組み事例を紹介する『Hello, Tomorrow～あしたのアート』の2部構成で企画展を行いました。会期中はしょうぶ学園統括施設長のトークや、ドキュメンタリー映画の上映、大分在住の作家のギャラリートーク、公開制作、ファッションショー、ダンス公演(P13)等のイベントを開催し、館内のミュージアムショップでは関連施設や作家のグッズも販売しました。

「生きるチカラ」

アーティストは今を生きています。そこから生み出される作品もまた生命力に溢れています。明日に希望を与えてくれる不思議なエネルギーを秘めた世界。何でも自由に思い切り「創る」、「楽しむ」。それがアート力です。

◆ 会期・会場

10月27日(水)～11月7日(水)

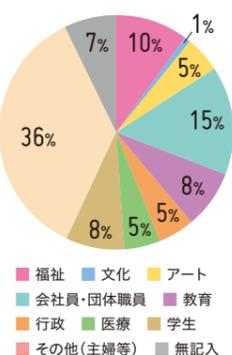
- ◎会場 …… 大分県立美術館1階展示室A
- ◎入場料 …… 無料
- ◎協力 …… 社会福祉法人太陽会

◆ 来場者・出展者・出品点数

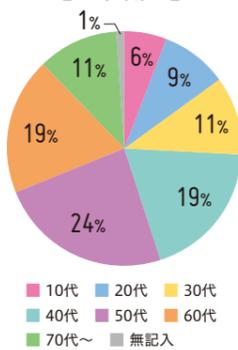
- ◎来場者数 …… 3,892人
- ◎出展者数 …… 「しょうぶ学園展」13組、
「Hello, Tomorrow展」18組、企業・団体11組
- ◎出品点数 …… 「しょうぶ学園展」1,632点、
「Hello, Tomorrow展」161点

◆ 来場者アンケート集計 ◎回答数… 639件

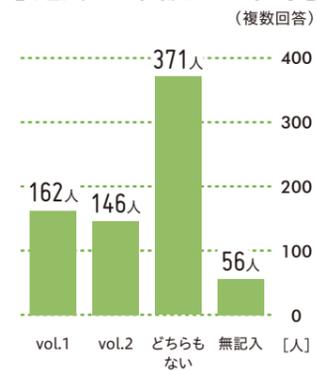
[職業・所属]



[年齢]



[過去の企画展への来場]



参加者の感想

展示の仕方が楽しく、工夫されているのを感じました。
圧倒的なスケールの、たくさんの作品たちに感動しました。
鹿児島まではなかなか行けず、ようやくしょうぶ学園さんの作品を生で観ることができ感動しました。
作者の方が声をかけてくださったので嬉しかったです。



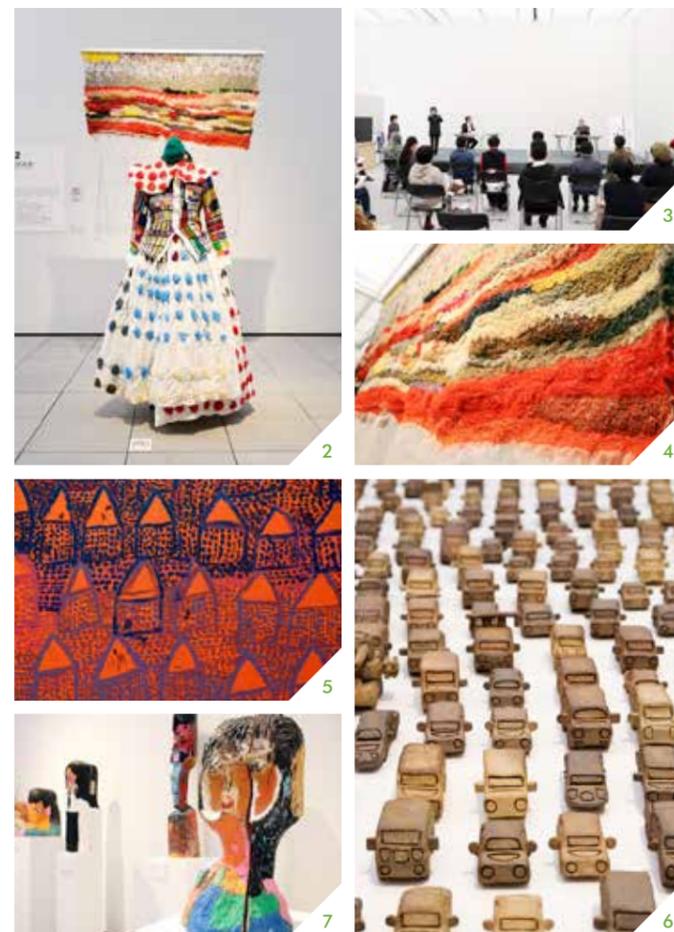
1. 村田夏子
2. nui project
3. 統括施設長のトーク
4. 高田幸恵
5. 翁長ノブ子
6. 南裕貴
7. 記富久

「しょうぶ学園」展

木工、陶芸、染め、織り、刺繍、和紙などのクラフト活動を行う「工房しょうぶ」から、13名のアーティストが出演。10年をかけて形成した「自由であり続けられる表現」と、その歴史を感じられる展示内容でした。

出展者

- | | | |
|-------|-------------|-------|
| 濱田 幹雄 | 森 節子 | 大島 智美 |
| 村田 夏子 | 翁長 ノブ子 | 高田 幸恵 |
| 記 富久 | 鶴木 二三子 | 岩元 哲文 |
| 泰良 茂雄 | nui project | |
| 南 裕貴 | 吉本 篤史 | |



Profile

しょうぶ学園 (鹿児島市)

1973年開設。桜並木をくぐり抜けると、48年の歴史とともに大きく成長したセンダンやケヤキ、ヒマヤ杉が芝の上に影を落とし、樹齢250年にもなるタブの大木が大きく手を広げ、人々を見守っています。木々に囲まれ、風や光や水が巡る心地よい暮らしをデザインし、その人がその人らしく、ありのままの姿でいられるように、「創ること」を通して幸福に生きるための本質を大切にしています。

Hello, Tomorrow ~あしたのアート

大分県内在住の障がいのある人のアート作品を紹介する取り組みの第3弾。今回は、今日から明日へと希望を持って一歩踏み出す力を与えてくれる作品161点を展示しました。



大分の若きアーティストたち

大倉 薫 / 古城貴博 / 渡辺璃空

魅力的な作品を日々生み出している、10~20代のアーティストを紹介しました。

今を生きる詩人のまなざし

芦刈昌信 / 板井景助 / 河野龍児 / 豆塚エリ

言葉を綴ることで想いを表現する、4人のアーティストの詩や映像作品を紹介しました。

アーティストと子どもたちの出会い

甲斐 瞳 ×

すくすく・いきいき村 緑が丘こども園

鮮やかな色彩と線画を得意とするアーティストと、感性溢れる子どもたちによるコラボレーション作品を展示しました(詳細はP21)。

誰もが楽しめる装い「ユニバーサルファッション」

服は着る葉(鶴丸礼子アトリエ)

独自の製図法で身体にフィットする洋服をつくり、多くの障がいのある人に「着る喜び」を届ける服飾デザイナーの仕事を紹介しました。

障がいのある人の表現 × ○○○で社会と繋がる

障がいのある人の表現が、民間企業・団体や行政機関の取り組みによって、私たちの日常の様々な場面に登場しています。大分の作家の作品の活用事例を紹介しました。

◎企業・団体 / 大分銀行、大分県建設業協会、Oita Made、久原本家グループ本社、日本グラフィックデザイン協会(JAGDA)、JR九州大分支社、明治安田生命大分支社、モンベル
◎行政 / 大分国際車いすマラソン事務局、大分県障がい児協会、大分市消防局

1. 大倉薫
2. 古城貴博 公開制作
3. 芦刈昌信
4. OitaMade×Nozomi・姫野暁・藤澤奈央
5. 服は着る葉(鶴丸礼子アトリエ)

gallery MAPO

大分県立美術館2階に展示スペースを設け、県内で活動する障がいのある作家の作品を展示し、各々の表現活動を発表する機会を提供しました。



雪白

4月29日(木・祝)~8月1日(日)

ロックバンドの音楽からインスピレーションを得て制作した絵画や、和を感じさせる切り紙作品など、様々な手法で生まれた作品を展示しました。



分藤 明男

8月2日(月)~9月30日(木)

大分市の社会福祉法人「暁雲福祉会」に所属する分藤さん。身の回りにある草花を題材にしたものや、県内名所の風景画など、色彩豊かな作品が並びました。



真澄 アキヒロ

10月1日(金)~11月30日(火)

水性マーカーやペイントマーカー等、ペンを駆使して表現される力強い人物像が魅力です。画面からエネルギーが溢れ出るようでした。



渡邊 譲治・渡辺 璃空

12月1日(水)~1月31日(月)

動物を主なテーマに制作する、豊後大野市の生活介護事業所「なごみ工房」に通う渡邊譲治さんの絵画と、大分市在住の渡辺璃空さんによる造形作品。陸の生き物や鳥など、ユーモラスな表情の動物たちが来場者を和ませました。

中野 道人

2月1日(火)
~4月30日(土)

大分市内の多機能型事業所「サマンの木」に通う中野さんによる、ペン1本で緻密に描かれる絵画には、色々な形が描かれ、建物、動物、植物など、観る人の想像力を刺激します。



舞台ダンス ワークショップ in OPAM

「宇宙までとどけ！
生きるチカラ、私のダンス」

障がいの有無にかかわらず、ともに表現(ダンス)をする場を提供し、県内のダンス教室の講師等が、障がいのある人へのダンス創作(指導)への新たなアプローチを学ぶことで、障がいのある人が身近な地域で表現(ダンス)することのできる環境を整えることを目的に開催しました。

講師 湖南ダンスカンパニー
ディレクター
ダンサー

北村 成美

県内から集まった
ダンスリーダー

秋月 淳司
麻生 和江
川口 倫恵
西川 晴香
三ツ木 真央

みんなが宇宙遊泳している時に正座して真っ直ぐ前を見つめる彼女が、まるで宇宙に浮かんでいるかのように、みんなの姿が彼女の脳内に広がる宇宙のようにも見えます。みんなの輪の中に入らない彼は衛星になって自転公転。みんなが低く沈んだ時に浮かび上がる男の子の伸びやかで真っ直ぐな心。巨大スカートの下の世界。不揃いな腕。足踏み。思い思いにペイントした衣装。全てが調和する正に総合芸術です。



参加者の感想

●ダンスリーダー

初日はダンスリーダーとしての役割より、一緒に参加するという感覚でしたが、2日目からダンスリーダーに宿題？考える？ことを提示してもらったので、みんなで相談しながら、自分たちのすべきことを確認し、必要なことなどを考えながら、練習することができました。

●ワークショップ参加者

終わったあと「楽しかった！」と、とてもイキイキと誇らしげに帰ってきたので親としても嬉しかったです。
初めは恥ずかしく思っていたのですが、始まったら夢中でやり切りました。
どこでどのようにして踊るのか、期待や不安はありましたが、わからないからこそ宇宙の旅だなあと、踊り終わって思いました。周りの仲間の真剣さやお客さんの熱量が伝わるなんとも言えない時間空間でした。大変貴重な経験ができました。

宇宙まで飛んで行ける 魔法のスカーフを作ろう

11月3日(水・祝)
◎会場……練習/iichiko総合文化センター
◎参加者…16人(うち、障がいのある人13人)

みんなのスカーフを集めて 巨大な宇宙船の帆を作ろう

11月4日(木)
◎会場……練習/iichiko総合文化センター
◎参加者…16人(うち、障がいのある人13人)

宇宙船に乗って旅に出る 計画をみんなで考えよう

11月5日(金)
◎会場……練習/iichiko総合文化センター
◎参加者…15人(うち、障がいのある人12人)

いよいよ出航！ ダンスで宇宙旅行

11月6日(土)
◎会場……リハーサル/iichiko総合文化センター
本番/大分県立美術館
◎参加者…16人(うち、障がいのある人13人)

4 人材育成

[シンポジウム/オンライン開催(Zoom)]

彫刻をさわる時間 シンポジウム

「彫刻をさわる時間」は、彫刻に触れることにより、その表現の意図や、その背後にある人々の思いや、その表現のあり方を問い直すきっかけともなるものであり、これまでの様々な実践例を紹介しつつ、その意味を探る機会となりました。

日時：2021年10月6日(水) 18:00~20:00
会場：大分県立芸術文化短期大学 人文棟大講義室
参加費：無料
参加方法：一般参加者はZoomによるオンライン参加とさせていただきます。(Zoom定員：200名)
申込期限：9月30日(木)

Web会議ツール「Zoom」をご案内いたします。参加費は申し込みフォームからお申し込みください。
https://forms.gle/3qgkz0107Pp0N3J8

お問い合わせ先：芸術文化支援センター
〒872-8502 大分県中津市大字1-1-1 大分県立芸術文化支援センター4階
(TEL) 大分県立芸術文化支援センター 事務局内
TEL 097-533-4505 (TEL) 097-533-4811 / FAX 097-533-4813

主催：大分県教育委員会 芸術文化支援センター
共催：おおいと障がい者芸術文化支援センター
大分県立芸術文化短期大学「芸術フェスタ2021」共催(イベント)
日本アートマネジメント学会九州部会
協力：大分県立盲学校

パネリスト
広瀬 浩二郎
篠原 聡
高橋 泰佳
田中 佐和子
村上 佑介

ファシリテーター
田中 修二

大分県立盲学校において実施した彫刻作品鑑賞支援ワークショップ(P18)を踏まえ、その講師などをパネリストに、彫刻に触って鑑賞することの意義や、その機会をつくり、増やしていくための手立て、課題などについて意見を交わしました。彫刻に触る鑑賞とは、単なる補助的な鑑賞方法ではなく、彫刻表現の可能性を開き、「美術」のあり方を問い直すきっかけともなるものであり、これまでの様々な実践例を紹介しつつ、その意味を探る機会となりました。



10月6日(水) 18:00~20:00

◎会場……大分県立芸術文化短期大学 人文棟大講義室/
オンライン開催(Zoom)
◎参加者…教育関係者・
アート関係者等85人
◎主催……大分県立芸術文化支援センター・大分県立芸術文化短期大学(「芸短フェスタ2021」共催イベント)・日本アートマネジメント学会九州部会
◎協力……大分県立盲学校

●パネリスト

講師 国立民族学博物館
学術資源研究開発センター
准教授
広瀬 浩二郎
東海大学
課程資格教育センター
准教授
篠原 聡
国東市立国東中学校 教諭
高橋 泰佳
大分県立盲学校 教諭
田中 佐和子
大分県立盲学校 講師
村上 佑介
●ファシリテーター
大分県立盲学校 教授
田中 修二

参加者の感想

彫刻を鑑賞するのに触ることすらマナー違反だと思っていました。触って抱えて潜って登ってという行動に最初はびっくりでしたが、見ているうちに快感になってきました。マナー違反だと思い込まされていた自分に気づきました。人間に生まれたからには、触る感覚を堪能したいと思いました。
パネリストの方々の専門性が多岐にわたっていて、様々な切り口からお話を伺うことができました。とても有意義なシンポジウムでした。
教育関係と芸術関係のお仕事では、見方や考え方が違うことが知れてよかったです。

[セミナー／オンライン開催(Zoom)]

みえない+みえる=∞ ~みんなで美術作品を鑑賞しよう~ vol.3



糸園和三四郎《丘の上の大樹》1991年、大分県立美術館

障がいの有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、言葉を交わしながら一緒に美術作品を鑑賞する方法について、実際の体験を通して学びました。今回は、大分県立美術館で開催中の「生誕110年記念 糸園和三四郎展」の作品を県内外の方々とともに鑑賞し、その作品の色、形、大きさ、モチーフといった「見えるもの」と、印象、感想、解釈、思い出したことなど、言葉にしなければ他者が知りえない「みえないもの」を語り合いました。複数で見て、それぞれが見え方、思い、考えを言葉にし、共同で作品の新たな魅力を発見し、鑑賞体験を深めていくといった鑑賞支援方法を身につける機会となりました。

9月25日(土)
10:30~13:30
14:30~17:00

◎会場 …… オンライン開催 (Zoom)
◎参加者… 午前の部 8人、
午後の部 7人

講師 視覚障害者をつくる
美術鑑賞ワークショップ代表
林 建太
視覚障害者をつくる
美術鑑賞ワークショップ
衛藤 宏章
大分大学教育学部教授
田中 修二
大分県立美術館主任学芸員
梶原 麻奈未

鑑賞作品

生誕110年記念 糸園和三四郎展
~魂の祈り、沈黙のメッセージ~
(大分県立美術館)

参加者の感想

大分の美術館に何うのは無理ですが、オンラインで知らない画家の作品を観ることができました。美術館とは違い、背景知識(解説)などなく、また意図してテーマなどで並べられているわけでもない状態だったので、想像力が湧きました。

触る絵の鑑賞会などはよくありますが、晴眼者と視覚障害者との対話は相違を超えました。

寛容ある交わりから未知の世界に惹かれ、感動的な喜びと好奇心が掻き立てられました。



糸園和三四郎《空と水と地と人と》1970年、大分県立美術館に寄託

〈生誕110年記念 糸園和三四郎展~魂の祈り、沈黙のメッセージ~〉の担当者としてワークショップに参加しました。感じたことは、会話のキャッチボールが増えるにつれて、作品情報も増えていくということです。例えば、「《空と水と地と人と》って、人の影がないのですね」という参加者の方の会話を聞いて、初めて気づき、どういう意味があるのかを考えるようになりました。そうした気づきの連続は、鑑賞が順調だったからだと思います。

大分県立美術館 主任学芸員 梶原麻奈未

JAGDAつながりの展覧会 Part3 フレフレハンカチ おおいた巡回展

全国のJAGDA会員のデザイナーが障がいのある作家の作品をもとにオリジナルハンカチを制作し、売上の一部を日本パラリンピアンズ協会へ寄付するプロジェクト。大分の参加者を含む172種のハンカチを展示しました。

6月18日(金)~28日(月)

◎会場 …… 大分県美術館1階アトリウム



講演会「デザイン×福祉が生み出す 新たな可能性」

6月19日(土)
10:30~12:30

◎会場 …… オンライン開催 (Zoom)

◎参加者… 63人

講師 グラフィックデザイナー
フクフクプラス共同代表
福島 治

障がいのある作家の作品を活用したプロジェクトを多数手がけるグラフィックデザイナー、福島治氏を講師に迎えた講演会。オンライン開催としたため県内外から興味関心を持つ参加者が集まり、福祉関係者やデザイン関係者を中心とした学びの機会となりました。後半は質疑応答として、参加者による様々な質問に講師が答える時間も設けました。

参加者の感想

障がいのある人のアートを、デザイナーの仕事と組み合わせることで作品の価値をさらに高め、手に取りやすい物にしていることに感銘を受けました。

福島さんが行ってきた活動やデザインに対する考え方を知ることができ、デザインを学ぶ学生としてとても有意義な時間となりました。

ワークショップ 「対話型アート鑑賞」

6月19日(土)
14:30~16:00

◎会場 …… オンライン開催 (Zoom)

◎参加者… 37人

講師 グラフィックデザイナー
フクフクプラス共同代表
福島 治

障がいのある人の絵画表現をオンライン上で鑑賞するワークショップ。福祉施設職員や教育関係、アート・デザイン関係、会社員、学生など様々な所属の方が参加し、講師の問いかけに対してチャットを活用して、感想を共有しました。自分以外の視点を知ったり、思いのままに感じたことを伝えたりして、複数で行う鑑賞の楽しさを実感する活動でした。

参加者の感想

これまで、キャプションばかり見てもう少し鑑賞がつまらなかったのですが、もう少し作品を楽しめるようになりそうです。この感覚を覚えておくようにしたいです。

他の人の意見を聞き、自分には全くなかった視点だったので驚きました。すごく刺激されました！

◎主催/公益社団法人 日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)大分地区、おおいた障がい者芸術文化支援センター

◎企画・運営/公益社団法人 日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA) ◎協力/エイブルアート・カンパニー

障がいのある人たちの 表現活動を守る著作権セミナー

具体的な事例を読み解きながら、表現作品にまつわる「著作権」「所有権」「著作者人格権」の権利について学ぶ機会としました。また、展示にかかる保険や売買取引上で必要となる契約など、現場で役立つノウハウも紹介しました。参加者の4分の3が福祉施設関係者で、今後も著作権に関することや作品の二次使用に関するセミナーを聞きたい旨の要望がありました。

2月26日(土)
13:00~16:00

◎会場 …… オンライン開催 (Zoom)

◎参加者… 38人

講師 弁護士/Field-R 法律事務所
NPO法人エイブル・
アート・ジャパン理事
辻 哲哉
九州障害者アートサポートセンター
センター長
樋口 龍二

参加者の感想

作品と作者、事業所との関係を筋立てて考え、注意をはらっていく必要性を再確認しました。

5 鑑賞機会の提供

ワンコインリレーコンサート vol.1

鑑賞支援つきオペラ『リタ』



障がいのある人もない人も、子どもから大人までが劇場という非日常の空間を体験できるプログラムとして、オペラ『リタ』を開催しました。広報する際は鑑賞支援をしていることを告知し、開演にあたっては劇場内部やオペラの概要説明などを行い、会場ロビーでは、鑑賞支援機器等の貸し出しをしました。今回の演目はイタリア語での上演であり、日本語字幕は障がいの有無に関わらず好評でした。鑑賞後のアンケートでは本公演に限らず「ユニバーサルな鑑賞、誰にとっても使いやすい、わかりやすい鑑賞支援」を望む声がありました。



5月29日(土)

◎会場
… iichiko総合文化センター
iichiko音の泉ホール
◎来場者
… 258人

鑑賞支援

特別鑑賞室(親子室)、車椅子席、字幕、手話通訳、オンテナ、イヤーマフ、要約筆記、点字プログラム、拡大文字プログラム、補助犬用簡易トイレ、場内の照明の明るさ及び音量調整、ヒアリンググループ、座席補助シート(チャイルドシート)

オペラ『リタ』

19世紀初期に活躍したイタリアのオペラ作曲家、ガエターノ・ドニゼッティが1841年に初演した作品。類まれなる美貌をもちながら、気の弱い夫パッペを尻に敷いているホテルの女将リタ。もともと船乗りのガスパロと結婚していましたが、彼が行方不明になり、パッペと再婚しました。そんなガスパロもリタは死んだと思っており、別の女性と結婚するためリタの死亡証明書を取りに来ました。男性二人によるリタの押し付け合いが始まる様をコミカルに描いた喜劇です。

【 鑑賞後の障がいのある方(視覚障がい)へのヒアリング結果 】

● 貸し出されたもの

会場入り口に貸し出しコーナーを設置して案内したことにより、チャイルドシート、拡大文字プログラム、イヤーマフの利用が多かったです。

● 「あったほうがいいと思う鑑賞サポート」についての回答

「音声ガイド」の次に、「タブレット端末の字幕」という意見が多く寄せられました。

「劇場の説明や出演者の自己紹介、あらすじの説明、オペラの基本的な鑑賞方法の説明があつてよかった」という声が聞かれました。今回、音声ガイドはありませんでしたが、歌詞のガイドは必要でした。点字・拡大文字のプログラムも必要ですが、点字も活字も読めない人への配慮があればよいと思います。



大分県立盲学校鑑賞支援ワークショップ

彫刻をさわる時間

大分県立盲学校はすぐ近くに、作曲家・滝廉太郎の銅像や、大分の南蛮文化をテーマとした作品など、多くの優れた屋外彫刻が設置されている遊歩公園があります。ワークショップは同公園と、彫刻家・黒川弘毅氏(武蔵野美術大学教授)と村上氏の作品を展示した盲学校の会議室において、視覚に障がいのある児童・生徒が講師より彫刻作品を実際に触って鑑賞する方法を学び、美術の楽しみ方を身に付けるとともに、思考力や表現力の育成、彫刻や大分の歴史に関する知識を育むことを目的として開催しました。ユニバーサル・ミュージアムを研究する広瀬氏、神奈川県立平塚盲学校での造形ワークショップを実施した篠原氏らを講師に、触覚と想像力を使って美術作品を鑑賞する方法を身に付ける時間となりました。

◆ 屋外彫刻鑑賞

10月6日(水)

◎会場 …… 大分市遊歩公園
◎参加者… 中学部14人、
高等学部11人

◆ 屋内彫刻鑑賞

10月7日(木)

◎会場 …… 大分県立盲学校
会議室
◎参加者… 15人

講師
国立民族学博物館
学術資源開発センター 准教授
広瀬 浩二郎
東海大学
課程資格教育センター 准教授
篠原 聡
国東市立国東中学校 教諭
高橋 泰佳
大分大学 教育学部 教授
田中 修二

◎運営協力(共催)
大分大学教育学部美術講座

児童生徒の声

いい匂いがする／音がする
／耳だ・手だ／なんだろう／
ざらざらする／ちくちくする
／すべすべするものがよ
かった／これは何でできて
るんですか？／人で足がな
いのは何でかな？／いろ
いろ彫刻があつて楽しかった

盲学校教員の感想

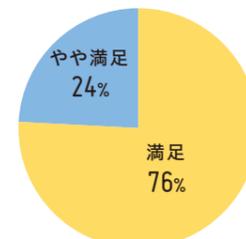
これまでも何度か遊歩公園に
は行ったことがあり、触る活動
をさせたこともあるが、やはり
手の届く足場のよいところを
短時間で、という形になってし
まうので、今回のような活動は
じっくりと取り組ませることが
できたのでよかったです。

彫刻に触れる色
んな楽しみ方を
教えてもらえま
した。生徒たちも
興味を持って参
加できており、
楽しんでいる様
子でした。

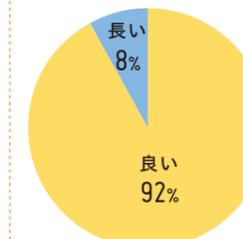
児童生徒の様子

◆ 触ったものから想像を膨らませるといことは難しい生徒ですが、触ったものから直感で浮かんだ感想は、私には想像もできないことだったので衝撃的でした。
◆ 校外での鑑賞から戻ってきた生徒の報告を聞いて、美術作品は「目で見えるもの」という固定観念から解放されてきたことがよくわかりました。
◆ 「こんな触り方をしたのは私だけだと思う」や「まさか彫刻にまたがるのもありとは思いませんでした」など、「～せねばならない」から「～することもアリなんだ」ということが体験できたようでした。

[満足度]



[開催時間]



6 情報収集・情報発信

調査・発掘



障がいのある人の創作活動の実態把握や新たな表現を発掘するために、芸術分野の専門家に同行を依頼し、施設や個人宅を訪問して情報収集を行いました。今年度は、施設のアート活動担当職員から情報提供を受けるなどして、5市8件を訪問しました。施設職員や家族が作品をこまめに保存していたことで、創作を始めた初期から現在に至るまでの作風の変化を確認することができた訪問先もありました。

◆ 令和3年度調査実績

調査先	市町村	分野
個人宅	日田市	絵画
個人宅	国東市	絵画
福祉事業所	豊後大野市	絵画
福祉事業所	豊後大野市	絵画
福祉事業所	別府市	絵画
福祉事業所	大分市	織り
福祉事業所	日田市	絵画
福祉事業所	日田市	絵画

調査員

大分大学名誉教授
イラストレーター・陶芸家
久間 清喜 **中野 伸哉**

服飾デザイナー
大分大学教育学部教授
鶴丸 礼子 **廣瀬 剛**

調査員の感想

色鉛筆やクレヨンを使うAさん。大胆に形をつかむセンスがあると思うので、今後は毛筆による墨絵などを試すのもいいのではないかと思います。

独特な絵柄のBさん。それ自体魅力的ではあるが、デザイナーの手が入ると別の魅力も引き出してくれるのではないかと思います。

ルーティンワークが得意なCさん。今後は画材や紙質を変化させ、バリエーションを広げてみるといいのではないかと思います(例えば、紙の代わりに布やキャンバスを使用)。

自宅で制作しているDさん。完成した作品は、製本やファイリングにより丁寧にまとめられているため、展示会等で発表する機会があっても展示形態などを検討しやすく、外部への紹介がしやすい作家でした。

Eさん。現在使用している紙はいつも同じサイズなので、大きなサイズで絵を描いてもらうとどのような変化があるのかが気になります。

Fさん。目の前の風景を冷静に観察しています。遠近感も正確で、安定した画面構成に感心しました。題材の写真によって作品イメージが変わることから、今後は写真を家族が撮影したオリジナルに変更。作品にどう反映するのが楽しみです。

施設職員による作品に対するアドバイスは、技術的なこと以外には本人の感性のままに進めさせている点が評価できます。

織りについて、服のパーツとして型紙に合わせた幅の長さで織っておくと、裁断の時に端切れを捨てる無駄が省かれるのではないかと思います。

情報発信



主催事業はチラシを作成し、県内を中心に配布、広報を行なっています。企画展や鑑賞支援などは新聞やテレビでも取り上げられ、県民の方々に広く知ってもらうことができました。インターネット上ではホームページやSNSを通じて、県内で活躍する作家やイベント情報、公募展情報なども発信しています。YouTubeチャンネルでは、会場に行けない方にも事業を知ってもらうことを目的に、企画展やダンス公演の映像記録などを公開しています。

◆ 情報発信件数

[メディア掲載]

新聞	16件
TV・CATV	5件
ラジオ	1件
雑誌等	5件

[SNS等発信]

HP	72件
SNS	95件
その他*	4件

*商店街ディスプレイ等

「発信媒体」

ホームページ



artbrut-oita.com



Facebook



おおいた障がい者
芸術文化支援センター



Instagram



artbrut.oita



YouTube



おおいた障がい者
芸術文化支援センター



7 交流事業

アートを感じるワークショップ

アートを通して人と人の出会いの場をつくることで、障がいの有無にとられない「共に生きる」地域社会の構築を目指し、大分県内で活動している障がいのあるアーティストが、県内の小学校やこども園等を訪問してワークショップを行いました。障がいのあるアーティストが講師となることで、子どもたちや学校関係者が多様性について考える機会とします。



ざわざわ山を描こう!

9月29日(水)
10:00~12:00
◎会場 …… 緑が丘こども園
◎参加者 … 30人
(園児27人、職員3人)

講師 | ペン画家
甲斐 瞳

「ざわざわ山」とは、園の中にある小川(ピオトープ)や小山、展望台、鳥の巣箱などのことで、そこは花が咲き、昆虫や蝶が舞い、鳥がさえずる場所です。今回はまず共同制作で、大きな作品を描きました。次に、Tシャツをキャンバスに、自分が感じる「ざわざわ山」を描きました。共同制作で完成した絵は、企画展「生きるチカラ」の会場で展示しました。会期中のファッションショーでは、それぞれが描いたTシャツを着て参加しました。



絵手紙を描いてみよう!

3月12日(土) 13:30~15:30

◎会場 …… 清明あけぼの学園
◎参加者 … 14人(児童生徒10人、職員4人)

講師 | 絵手紙講師
原野 彰子

活動の前に、原野さんのこれまでの人生の歩みや、絵手紙と出会ったエピソードをお話して貰いました。その後、旬の野菜や季節の花々をモチーフにして皆で絵手紙制作に取り組みました。「手紙を送る相手を想像しながら描いてみよう」「素敵な色を選んだね!」といった原野さんの呼びかけに、子どもたちはのびのびと筆を動かして描き、あたたかいメッセージを添えた沢山の絵手紙が生まれました。



おおいた障がい者芸術文化支援センター

〒870-0029
大分県大分市高砂町2番33号
iiichiko総合文化センター4階
(公益財団法人分県芸術文化スポーツ振興財団)
Tel.097-533-4505(平日9:00~17:00)
Fax.097-533-4013
E-mail artbrut-oita@emo.or.jp

<http://artbrut-oita.com/>
Facebook ▶ おおいた障がい者芸術文化支援センター
Instagram ▶ @artbrut.oita

- ◎ JR大分駅から徒歩で約10分
- ◎ 大分ICから車で約7分
- ◎ 駐車場あり(有料)

[表紙]

1	3	5
2	4	
6	7	
8	9	10
11	12	13

- 1・13 アートを感じるワークショップ
- 2・9 フレフレハンカチおおいた巡回展
- 3・4・8 企画展 生きるチカラ「しょうぶ学園」展
- 5 舞台ダンスワークショップ in OPAM
- 6 鑑賞支援ワークショップ 彫刻に触る時間
- 7 真澄アキヒロ「それは荒ぶる神」
- 10 オープンアトリエ in たけた
- 11 古城貴博「はばたく」
- 12 渡辺璃空「カオムラサキラングール」

[企画・発行]

おおいた障がい者芸術文化支援センター
令和4年3月発行

おおいた障がい者芸術文化支援センターは大分県から委託を受け、公益財団法人分県芸術文化スポーツ振興財団が企画・運営しています。

令和3年度 厚生労働省 障害者芸術文化活動普及支援事業